

この一瞬のために

六ツ美北中学校

太田 周作

「あなたたちの凄さ、かっこよさ、3年間で成長してきた姿を見せる場を作ってもらえたことに感謝して、恩返しをする場にしよう。」

これは、市長杯全競技の中で、唯一陸上競技の部で行われる開会式での選手宣誓の話をいただいたときに、生徒たちに伝えた言葉です。

この生徒たちが1年生の時、「あなたたちは3年生になった時、総合体育大会の当番校として、岡崎中の注目的になる。それにふさわしい人になろう。ふさわしい学年になろう。ふさわしい学校になろう。」と、学年集会で話しました。しかし、新型コロナウイルスの影響で、3年間思いを込めて目指してきた総合体育大会は中止になってしまいました。それでも生徒たちは健気でした。休校明けに始まった部活動では、「後輩たちにとって誇れる先輩でありたい。」「お世話になった先生たちの自慢の3年生でありたい。」「仲間たちと達成感を味わいたい。」と話す3年生に何度も心を打たれました。

大会当日、新しい競技場で六ツ美北中学校3年生の代表として、岡崎市中の3年生の代表として選手宣誓をしました。その中で印象に残るフレーズがありました。

部活動生活の集大成。

喜び、悔しさ、達成感、この仲間と出会えてよかった。

そんなすべての思いをその一瞬に懸けて、最高の思い出にすることを誓います。

喜びは、本気でやるからこそ味わえる。悔しさは、本気でやるからこそ味わえる。

達成感は、本気でやるからこそ味わえる。いい仲間とは、本気でやるからこそ出会える。

これらのことは、正に生徒たちそのものです。

選手宣誓が終わると代表2人の顔には、凛々しさと、美しく輝く眼がありました。2年前1年生の時に初めて出会った時から間違いなく大きく成長しました。そして、これからの人生も挫折や逆境に負けることなく、一瞬一瞬を大切に生きていくことができることを確信しました。

生徒たちが輝く場面、機会を作っていただき、本当にありがとうございました。

コロナ禍における市長杯を終えて

甲山中学校 佐藤 諒

日常が日常でなくなるコロナ禍の日々。部活動を通して、生徒たちは何を感じ、何を学んだのでしょうか。

「県大会優勝！葵中学校にリベンジ！」。新人戦を終え、新たな目標に向かって進み始めた生徒たちは、自分たちもやれるという手応えを感じ始めていました。そんな矢先に届いた休校、そして、総体中止、さらには全国大会中止の連絡。これらを生徒たちに伝えた時、かける言葉が見つかりませんでした。市長杯開催が決まった時、上位大会がないことからか生徒たちのモチベーションは今一つでした。そんな生徒たちの気持ちを変化させたのは、学校の先生方の存在でした。審判を買って出てくださいった先生、練習相手になってくださった先生、そしてたくさんの激励の言葉を掛けてくださった先生。先生方の温かさや思いやりに接する中で、生徒たちの思いは、最後までやり切りたいという思いに変わっていきました。

満を持して迎えた市長杯。準決勝の直前にキャプテンが体調を崩し、出場できなくなるというアクシデントが起きました。そのことを生徒たちに伝えたとき、「絶対に勝って一緒に決勝に行きます。」という力強い言葉が返ってきました。さらには、これまで劣勢になると集中力を欠くことがある生徒Aが、タイムの時に自ら作戦盤を使い、みんなと戦術を話し合いました。今までにはない光景がベンチで見られました。

試合には負けてしまいましたが、生徒たちは、仲間とともに一つの目標に向かって取り組むことの素晴らしさを実感できたと確信しています。コロナ禍の中で、多くの先生方、保護者の方の協力を得ながら実現した市長杯は、生徒たちの成長にとって、今まで以上に価値のある大会となりました。

最後に、大会の運営に携わっていただいた先生方に心から感謝いたします。急な日程変更や無理なお願いばかりでしたが、臨機応変に温かく対応していただいたおかげで、大会を無事に終えることができました。私自身も学ぶことの多い大会となりました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

